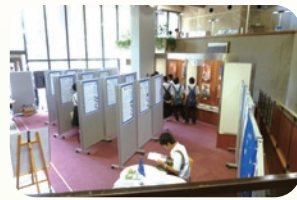


KIBOKO

木這子 Bulletin of the Tohoku University Library Vol.37, No.3



秩父宮記念スポーツ博物館提供のオリンピック公式ポスターの展示



来館者展示観覧の様子



展示の風景

展示「EU・オリンピックを迎える旅」を開催

平成24年7月3日(火)~31日(火)、本館エントランスホールにおいて、EUフレンドシップウィーク展示「EU・オリンピックを迎える旅」を開催しました。当館がEUの情報センターに指定されていることから、毎年EU関連の展示を行いEU諸国の紹介をしています。今年度は、ロンドンオリンピック2012にちなみ、夏季オリンピックが開催されたEU各国の街や文化等を紹介すると共に、オリンピック公式ポスターも展示しました。

また、展示内容に関するクイズも出題し、全問正解者には抽選でEUグッズをプレゼントしました。クイズ解答者数は352名。アンケートには「試験終わりにフラット立ち寄ってみました。毎年見ているのですが、その度に知らなかったことを知ることができてとても有益に感じます。」「いつもながら企画力に脱帽です。」「オリンピックを通し、EUの都市を知ることができておもしろかった。ロンドン五輪も楽しみです。」などの感想が寄せられ、大変好評でした。



実りの秋号

Contents

読書の秋 TOPICS

- 知的書評合戦「仙台ビブリオバトル」を開催 2
- 今年もやります! 学生選書企画
『Student Book Harvest 2012』 2

SERIES

- 「ゆかりの人々」 工学研究科 五十嵐太郎 教授 4
- <つながり>の一冊 『銃・病原菌・鉄』 4

LEARNING

- SSH山形県立鶴岡南高等学校へ出張講習会 5

- 「Twitter活用術」講習会を開催 5

EVENTS

- 「附属図書館オープンキャンパス」を開催! 6

Information

- 全学教育科目「『レポート力』アップのための
情報探索入門」開講 8
- 読書の秋企画アンケート
「My Best Textbook」実施のお知らせ 8

Editor's notes

知的書評合戦「仙台ビブリアバトル」を開催

平成24年7月2日(月)、附属図書館本館において、東北大学の有志グループ「仙台ビブリアバトル」と協力して、「第1回仙台ビブリアバトル in 東北大学附属図書館」を開催し、30名が参加しました。続いて7月30日(月)はオープンキャンパスのイベントとして第2回目を開催、35名の高校生・大学生が参加しました。

ビブリアバトルは、複数名の登壇者(バトルー)が、5分間でお気に入りの本の中身を紹介し、2分間の質疑応答を行います。最後に参加者は、その紹介や質疑を聞いて一番読みたいと思った本に投票します。そして、得票数の多かった本がチャンプ本とし

て選ばれるという、ゲーム感覚を取り入れた知的書評合戦です。

各回、東北大学生3名、図書館員1名、書店員1名の5名のバトルーが思い思いの本を紹介しました。第1回目の投票では、最後の1票を残して3つの本が同票で並びという、ドラマチックな展開の結果、吉村昭の『巖窟』がチャンプ本に決定、第2回目はピーター・シムズの『小さく賭ける!—世界を変えた人と組織の成功の秘密』がチャンプ本に決定しました。

次回開催は、12月以降となります。みなさんもぜひご参加ください。



▶ 「仙台ビブリアバトル」案内ポスター



▶ 熱弁を奮う登壇者(バトルー)



▶ バトル風景

今年もやります! 学生選書企画「Student Book Harvest 2012」

あなたも、図書館で利用する本を収穫しませんか? 毎年好評の学生選書企画『Student Book Harvest』を今年も実施します。昨年も多くの学生の方々が参加し、400冊以上の収穫がありました。

選書方法は、書店へ出向き、店頭書棚から直接本を選ぶ「本屋へGo! ひとりでじっくり♪〜」と、テーマを1つ決めてグループで選ぶ「テーマでGo! 仲間と一緒に♪〜」の2種類となっています。また、収穫された図書は、館内に展示予定です。さて、今年はどうな図書が収穫されるでしょうか。



▶ メインフロアの展示風景

収穫方法についてはこちら…

■ 募集期間 : 10/22 ~ 12/25

(参加された方には、附属図書館オリジナルエコバックを進呈)

■ 「本屋へGo! ひとりでじっくり♪〜」

・ 応募方法 : 附属図書館にある参加申込書をメインカウンターへお持ちいただくか、e-mailで附属図書館受入係(acq@library.tohoku.ac.jp)宛にお申し込み下さい。

・ 収穫場所 : 市内書店(ジュンク堂書店など)

※ お申し込みいただいた方には、後日詳細をご連絡します。なお、定員になり次第締め切となりますので、お早めにお申し込み下さい。

■ 「テーマでGo! 仲間と一緒に♪〜」

・ 応募条件 : 川内キャンパスに所在する研究室またはゼミ(専攻分野に関する本の選定)東北大学学友会所属団体及び準加盟団体(所属サークル活動に関する本の選定)

・ 応募要領 : 所定の応募用紙と図書選定リストに必要事項を記入し附属図書館メインカウンターまでお持ち下さい。応募用紙には監修教員の印が必要ですので、ご注意ください。応募用紙・図書選定リストは附属図書館HP(<http://tul.library.tohoku.ac.jp/>)からダウンロードするか、附属図書館備え付けのものをご使用下さい。新刊図書を中心に、学習用、教養図書を20冊程度、5~7万円で選定して下さい。できるだけ附属図書館に所蔵のないものを選んで下さい。

※ 応募枠に達した時点で締め切りとなります。こちらもお早めにご応募下さい。

読書の秋 TOPICS

「Student Book Harvest 2011」から、ご紹介します。

■「テーマでGo! 仲間と一緒に♪」

■ 経済学研究科 藤本ゼミ社会人院生組 『これからリーダーになる人のための20冊』

コンセプト どんな人がつくった組織で働きたいか、ということも会社選びの大事なポイントではないかと思います。

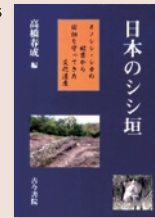
- ・オムロン創業者立石一真「できません」と云うな
- ・いつも乱戦、ごまかしのない経営
- ・スティーブ・ジョブズ：自分を貫く言葉
- ・スティーブ・ジョブズ：世界を変えた言葉
- ・スティーブ・ジョブズ 1, 2
- ・「権力」を握る人の法則
- ・トップが語る次世代経営者育成法
- ・はたらく場所が人をつなぐ：copresence work
- ・李健熙（イゴンヒ）：サムスンの孤独な帝王
- ・ダントツ経営：
- ・人生越えられない坂はない
- ・監査法人を叱る男
- ・日本発! 世界No.1ベンチャー
- ・人生で大切にすること
- ・スノーボール 上下
- ・俺は、中小企業のおやじ
- ・もっとわがままになれ!
- ・わが経営に刻む言葉



■ 東北大学考古科学技術研究会 『考古学者の卵が選ぶ過去のよみ方の本 Part2』

コンセプト 過去を読み解くための本を様々な視点から集めました。

- ・海から甦る元寇：700年のロマン・目でみる水中考古学
- ・廃墟となった戦国名城
- ・浅間山大噴火の爪痕：天明三年浅間災害遺跡
- ・千年震災：繰り返す地震と津波の歴史に学ぶ
- ・新説邪馬台国山陰説：論点整理：さまよえる邪馬台国
- ・伝統のアイヌ文様構成法によるアイヌ刺しゅう入門 全3編
- ・アイヌ民族もんよう集：刺しゅうの刺し方・裁ち方の世界
- ・古代出雲の壮大なる交流：神々の国を往来した人と文物
- ・太平洋に沈んだ大陸：沖縄海底遺跡の謎を追う
- ・さまよえる邪馬台国：邪馬台国山陰説ダイジェスト版
- ・Nous n'avons jamais été modernes
- ・すぐわかるヨーロッパの宝飾芸術
- ・日本のシシ垣
- ・鳥取 山川日本史小辞典
- ・骨から見る生物の進化
- ・時の彼方に消えた文明
- ・古代誌：古事記を読んで
- ・西日本の縄文土器



■ 幻想文学研究会 『異界へのまなざし ー目で見える幻想文学ー』

コンセプト ビジュアル面を重視し、挿し絵画家の本をたくさん選びました。今年も選書企画中で最も偏った「本棚」をお楽しみ下さい。

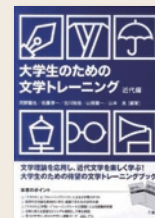
- ・幻想怪奇譚の世界
- ・少年少女昭和ミステリ美術館
- ・風神の袋
- ・雷神の撥
- ・近代ニッポン「しおり」大図鑑
- ・江戸怪奇標本箱
- ・心霊写真は語る
- ・生首考
- ・とうほく妖怪図鑑
- ・おとぎ話の幻想挿絵
- ・Kay Nielsen：幻想の挿絵画家：
- ・ジョルジュ・バルビエ：優美と幻想のイラストレーター
- ・江戸川乱歩と少年探偵団
- ・こどもパラダイス：1920-30年代絵雑誌に見るモダン・キッズらいふ
- ・初山滋：永遠のモダニスト
- ・宇野亜喜良：少女画六つのエレメント
- ・猟奇博物館へようこそ：西洋近代知の暗部をめぐる旅
- ・魔女論：なぜ空を飛び、人を喰うか
- ・松井冬子 上下
- ・神秘なる挿絵画家エドモンド・デュラック



■ 近代小研究会 『近現代文学研究の必読の20冊』

コンセプト 近現代の小説や評論を研究するうえで、必読の20冊を選びました。

- ・女が女を演じる：文学・欲望・消費
- ・グラウンド・ゼロを書く：日本文学と原爆
- ・政治小説の形成：始まりの近代とその表現思想
- ・文豪の翻訳力：近現代日本の作家翻訳
- ・佐藤春夫作品研究：大正期を中心として
- ・リービ英雄：「鄙」の言葉としての日本語
- ・うつろ舟：ブラジル日本人作家松井太郎小説選
- ・妊娠するロボット：1920年代の科学と幻想
- ・福田恆存思想の「かたち」：イロニー・演劇・言葉
- ・文学的視線の構図：梶木剛遺稿集
- ・志賀直哉の「家庭」：女中・不良・主婦
- ・大学生のための文学トレーニング
- ・現代本格ミステリの研究
- ・尾崎翠砂丘の彼方へ
- ・認知物語論キーワード
- ・1950年代：「記録」の時代
- ・有島武郎事典



■「本屋へGo! ひとりでじっくり♪」

アンケートによる、参加者の感想です。

- ・興味のある本を自分でかなりの冊数選ぶことができるという点で、この企画は良いと思った。
- ・職員の方の対応がとても丁寧なため安心して参加できた。
- ・普段、一人で本屋でじっくり本を読む時間が少なく、今回の企画によりたくさんおもしろい本を見つけることができました。
- ・事前に書店の品揃えが分かると良い。 などなど……。

今年もぜひ、あなたの収穫した1冊を図書館の書棚へ加えて下さい。ご応募お待ちしております。

SERIES

「ゆかりの人々」～ 工学研究科 五十嵐太郎 教授

シリーズ「ゆかりの人々」は「東北大ゆかりコレクション」にちなみ、東北大学にゆかりのある人々とその著書について、著者ご本人に様々なエピソードを含めてご紹介いただくコーナーです。シリーズ2回目は、工学研究科 都市・建築学専攻の五十嵐太郎教授にうかがいました。



すでに2001年以来、15冊の単著を出し、共著や編著を含めると数えきれなくらいになるので、ここでは3冊を紹介したい。



『現代建築に関する16章』
(講談社新書、2006年)

建築版の「術語集」を意識したもので、一般向けに読めるように書いた本である。是非、専門以外の方にも手にとって欲しい。「形態と機能」、「全体／部分」、「身体」、「スーパーフラット」、「日本的なるもの」、「場所と景観」、「透明性と映像性」など、建築を知るうえで重要なキーワードを掲げ、それぞれを口語で解説した。また現代建築に偏ることなく、なるべく過去の歴史建築にも触れるように心がけている。(本館2F学関新書 講談社現代 US1/0199/1867)



『新編 新宗教と巨大建築』
(ちくま学芸文庫、2007年)

オウム真理教のサリン事件をきっかけに、天理教、大本教、金光教など、新宗教の空間を研究した筆者の博士論文を書籍化したものである。興味本位に外からサティアンを理解不能な他者として評論するのではなく、なるべく内側のまなざしから共同体の建築の誕生する場を理解するために、無視されてきた新宗教建築の歴史を追究した。それは思想をどのように建築に反映させるのか、あるいはしないのかを分析することを伴う。なお、本書では日本近代の神社や寺院、海外のモルモン教やカオダイ教もとりあげた。(本館2F学関新書ちくま学芸 KA337/05)



『被災地を歩きながら考えたこと』
(みすず書房、2011年)

3.11以降に刊行したこの本は、タイトル通り、青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉と、津波に襲われた日本の沿岸をできるだけ多くまわりながら、どのように街が破壊されたかを確認し、現場で考えたことをまとめた本である。筆者自身、東北大学の建築棟が大破し、研究室を失い、しばらく蔵書の大半が回収不能になり、部分的に被災した。その後、研究室で南相馬の仮設住宅地や女川のプロジェクトを立ち上げたり、震災に関わる国際巡回展を企画した経緯、あるいは被災地でのさまざまな建築家たちの試みなども記している。(本館メインフロアゆかりコレクション EG77/0457)

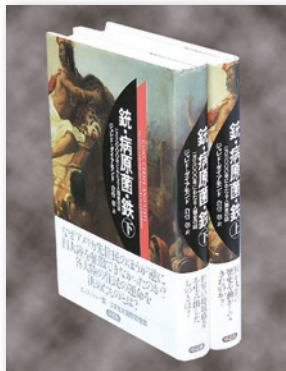
SERIES

〈つながり〉の一冊 『銃・病原菌・鉄——一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎』

異なる環境に身を置くこと

(東北大学歯学部5年 山本貴文)

シリーズ「〈つながり〉の一冊」は、学生の皆さんに、感銘を受けた本や、他の学生さんにお薦めしたい本、ご自身の研究上、影響を受けた本などを紹介してもらって連載企画です。



ジャレッド・ダイヤモンド著『銃・病原菌・鉄——一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎』
倉骨彰訳、草思社、2000年(本館2F学関・本館書庫 G14/086、ほか)

シリーズ2回目、どんな本を紹介しようかと戸惑いながら自分の家の本棚をのぞいてみる。あまりにコアな分野の作品紹介で自己満足感に浸るのもいかなものか..ふと目についたのが本書である。

「銃・病原菌・鉄」あまりに固すぎる表題。そしてあまりに厚みのあるページ数。手にとる人がためらってしまうことが本書の最大の不幸といっても過言ではない。しかし、歴史を自然科学で解き明かすことをコンセプトとしている本書は、迂闊に読むと中座するのをためらうくらい読者を引き込む魅力にあふれている。

未だ国家や法律という概念すらない初期の人類。そのなかで選ばれた種が他を淘汰ないし支配していったのははたして全て偶然の産物だったのか? 諸説あるこのテーマに対し、著者はそれがなるべくしてなったと言う。生物の進化が環境に依拠して起こるように、文化もまたそうであるように、現在に至るまでの連続と続く歴史もまた例外ではない、と。そしてその尖兵たるものとしてあげられているのがこの表題なのだ。

本書を読み進めると環境要因がいかに重要であるかという事に気づかされる。肥満が伝染するといわれるように、孟母三遷という言葉があるように、知らず知らずわれわれは環境によって様々な分野での分化を誘導されている。自分のキャリアや人生はデザインするものであるが、努力や情報、運といった要因の他に環境という概念があることを忘れてはならない。

今までと異なる環境に身を置くというのもまた一興ということであろうか。



SSH山形県立鶴岡南高等学校へ出張講習会

平成24年6月21日(木)、山形県立鶴岡南高等学校からの依頼により、附属図書館員が、高大連携の一環として情報探索法に関する出張講習を行いました。同校は、平成24年度から文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を受けて、高校生の探求活動の取組みに力を入れており、学術機関や企業と連携し、世界に通用する人材育成を目指しています。

この日は、1年生約200名が探求活動を行う「鶴南ゼミ」において、2時間にわたる講習を受講し、「信頼できる情報源とは何か」から、「情報探索における事前調査の重要性と図書や論文の探し方」「レポート作成の基礎」に至るまでの基本的な情報探索法について学習しました。講習内容は、東北大1年生向けに実施している講習会「情報探索のススメ」の高校生版で、生徒は講師の説明をメモを取りながら熱心に聴いていました。最後に行った「理解度チェックテスト」の正解率は高く、情報探索が今後の探求活動の中で活用されていくことが期待されます。同校からは「2年生にも受講させたい」「教職員も受講したい」との声が寄せられ、予想以上に好評でした。



▶ 講師の説明に熱心に聴き入る高校1年生



▶ 積極的に質問する高校生たち



「Twitter活用術」講習会を開催

平成24年6月27日(水)～29日(金)の3日間、「Twitter活用術」講習会を開催しました。また、同様の内容で7月31日(火)にはオープンキャンパスのイベントとしても開催しました。

この講習会は、Twitterを単なるつぶやきとして留めず、Twitterにより情報収集や情報発信を効果的に行い、情報リテラシー能力の向上を図るという趣旨で開催されたもので、単なる操作説明会とは一線を画する内容でした。

参加者の合計は68名。アンケートによると、学部生から大学院生、教職員、高校生まで幅広い参加があり、twitter初級・中級・上級者それぞれが、経験に応じて有用な使い方を知ることができた講習会でした。



▶ 6月の講習会風景(学生向け)



▶ オープンキャンパスでの講習会風景



「附属図書館オープンキャンパス」を開催!

平成24年7月30日、31日の2日間、東北大学オープンキャンパスが開催されました。附属図書館の本館と各分館でも、高校生に大学図書館を知っていただくため、さまざまなイベントを実施しました。大学全体として今年は参加者が増加し、図書館も混雑しましたが、オープンキャンパス実施にご協力いただき、どうもありがとうございました。当日の各館の様子をご報告します。

本館

本館では、入口の垂れ幕をオープンキャンパス用に替えたほか、七夕飾りを吊して仙台ならではのオープンキャンパスの雰囲気作りを行いました。また、図書館オリエンテーリングや150万冊の書庫見学ツアー、日・EUフレンドシップウィーク記念展示等のイベントで高校生を迎えました。2日間で延べ7,800名あまりの高校生等が来館し、館内は大変混雑していました。

図書館オリエンテーリングは、高校生たちに各自で館内マップを見ながら、館内各所のチェックポイントに貼られた問題を解いてもらうという企画です。展示や資料を見ないと解答できない問題を用意し、楽しみながら大学図書館を知って頂きました。

150万冊の書庫ツアーでは、書庫内にある「狩野文庫」の所蔵資料から、杉田玄白の「解体新書」、新井白石の「西洋紀聞」などを紹介し、参加した高校生たちは、教科書などに出てくる有名な書籍の原本を見て、魅力を感じていました。

日・EUフレンドシップウィーク記念展示では、ロンドンオリンピックにちなみ、夏季オリンピックが開催されたEU諸国の街や文化等を紹介し、過去のオリンピック公式ポスターの展示も行いました。

このほか、7月30日には、「第2回仙台ビブリオバトル in 東北大学附属図書館」を開催しました。高校生を含めた観戦者の投票の結果、チャンプ本は、「小さく賭ける! : 世界を変えた人と組織の成功の秘密」となりました。

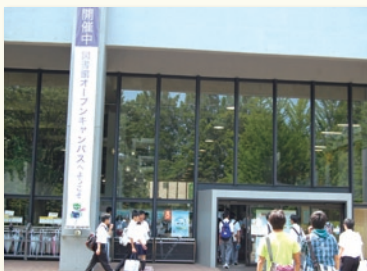
また、7月31日には、「Twitter活用術」講習会を開催し、情報収集と情報発信のためのツールとして、Twitterをどう活用するかについて紹介しました。



▶ 来場者を迎える七夕飾り



▶ 古典資料に見入る高校生



▶ 来場者を迎える入口の垂れ幕



▶ にぎわう館内



▶ オリエンテーリングでチェックポイントを廻る高校生

医学分館

医学分館では、江戸時代の医学書の展示会「〈医学〉と〈文化〉—『解体新書』に見る異文化交流」と、医学部生の企画による教科書展示会の2つの企画を開催しました。2日間で約1,700名の来場者があり、多くの高校生が、『解体新書』をはじめとする古典資料や、大学の教科書を熱心に見学していました。教科書展示では、多くの高校生が大学生の解説に熱心に耳を傾け、将来の大学での勉強に思いを馳せていました。

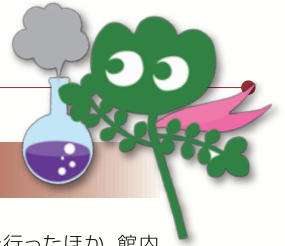


▶ 古典資料展示会「〈医学〉と〈文化〉—『解体新書』に見る異文化交流」



▶ 医学部生による企画 教科書展示





北青葉山分館

北青葉山分館では、エントランスホールで、附属図書館が所蔵する和算関係資料を紹介するパネル展示を行ったほか、館内ツアーを実施しました。

また、高校生に、大学生の学習・研究生活を体験してもらうため、レポートの書き方や文献検索のミニ講習会を実施しました。両講習会には、高校生だけでなく、先生方や保護者の方にもご参加いただきました。



▶ エントランスホールの展示



▶ 館内ツアーの様子



▶ 文献検索データベースを熱心に操作する高校生

工学分館

工学分館では、工学研究科など、学内にある工学系組織の歴史や、ゆかりのある著名人を紹介したパネル展示「東北大学工学系の歴史」を行いました。また、高校生に工学部の学生がどんな学生生活を送っているかを知ってもらうための展示「工学部生の生活」を開催しました。高校生等、約800名の来館があり、来館者には、附属図書館のイメージキャラクター「はぎのすけ」をデザインしたクリアファイルを配布しました。館内では、広い工学部を歩いたあとで、一息ついている高校生や親子連れが目立ちました。



▶ にぎわう館内の様子



▶ パネル展示



▶ ☆ オリジナルグッズ ☆

農学分館

農学分館では、昨年引き続き「食・農・村の復興支援プロジェクト」のパネル展示会を開催し、高校生、父兄、学校関係者など約470名の来館がありました。

このプロジェクトは、未曾有の大規模震災からの復興に向けて、「安全安心で持続可能な食の確立」、「農林水畜産業の復興」、「農・漁村の再興」に関する多面的な支援を行うために農学研究科が立ち上げたもので、実際に携わっている先生方（大学教員）の説明に、高校生たちも聞き入っていました。



▶ 高校生に熱く語る先生
(復興支援菜の花プロジェクト)



▶ 先生に質問をする高校生



Information

全学教育科目「『レポート力』アップのための情報探索入門」開講 (2セメ・金曜日・5時限目・A105教室)

平成24年10月5日(金)から、全学教育科目の授業「『レポート力』アップのための情報探索入門」を開講します。この科目では、講義と実習を通じて、レポート作成法と、レポート作成に欠かせない文献・情報調査法の基礎を学びます。授業時間外にも、図書館内に新たに設置するサポートデスクに、レポート作成や文献調査について相談することができます。

皆さんもぜひこの授業でレポート力アップを目指してください。



▶ 「レポート力」アップのための情報探索入門講義風景

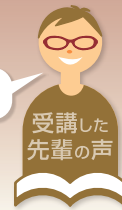
受講した先輩の声



・この授業をとっているかどうかで、かなりレポート力に違いが出るだろうと実感しました。

・受ける前と受けた後で、レポートそのものに対する考え方や姿勢がかなり変わりました。

・中間・最終レポートを添削して返却していただけるのも、他の授業にはないサポートでとても役立ちます。

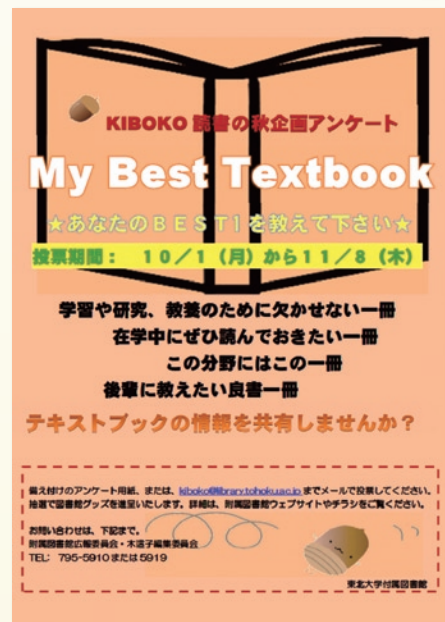


読書の秋企画アンケート「My Best Textbook」実施のお知らせ

暑かった夏が去り、学習や研究に最適な秋は、実り多き様々な学術的活動が行われる季節です。一般的には「読書の秋」ともいわれ、いろいろな催し物も行われます。かくいう附属図書館各館も「読書の秋」「学術の秋」にふさわしい場所と自負しております。

今回のアンケート企画では、皆さんが普段使用しているテキストブックや参考書などの中で、あるいは自学自習の際に、「これは手放せない」「この分野では必須の本だ」「在学中には是非読んでおきたい」と思っている有益なテキストブックを投票していただき、利用者の皆さんが本当に必要としているテキストブックは何か?を探り、今後の蔵書構成の参考にすることが目的です。また、同時に大学での学習や研究に有効なテキストブックの情報を学生の皆さんで共有していただければと思っております。集計結果の発表は、木這子次号となります。分野別のランキング方式でお知らせいたしますのでご期待下さい。

アンケート実施期間は、10/1(月)～11/8(木)です。読書週間*を含みます。利用者の皆さん、奮ってご応募下さい。詳細は、附属図書館ウェブサイト、もしくは館内ポスター・チラシをご覧ください。また、記名いただいた方には、抽選で附属図書館グッズを進呈いたします。



▶ 読書の秋アンケートポスター

* 読書週間：大正13年(1924)に日本図書館協会が開始。読書の鼓吹、図書文化の普及、良書の推薦を主な目的としている。現在は社団法人「読書推進運動協議会」がその任務を引き継いでいる。

Editor's notes

17世紀末から18世紀のイギリスやフランスでは、市民がコーヒーハウスやサロンに集い、読んだ本や雑誌、新聞などについて自由に対等に討議し合う「公共の空間」が形成されました。このような公共圏における熟議こそが、近代的な市民社会の形成に重要な役割を果たしたとも指摘されています。

ところで、附属図書館本館では、今秋の「ラーニング・コモンズ(Learning Commons)」の開設に向けて改修工事が進められています。「ラーニング・コモンズ」とは、学生の皆さんが、自由で対等な議論を行うための「共有の空間」です。この新しい空間で展開される活発な議論こそが、新しい「知」の創出に繋がって行くのだと期待しています。次号は、「ラーニング・コモンズ」特集です。(木這子編集委員 木戸浦 豊和)